

統計的に見てあなたは受かるという話

「経済産業省の春の情報処理技術者試験が賑々しくもまた楚々と行われました。早速、受験者速報が情報処理儀器者試験センターのホームページで掲載されておりますので、(http://www.jitec.jp/index.html)ここでその情報を分析し、今後の情報処理世界の展望なぞ、見ていきたいなあと想います」

「そうそうホームページのURLが4/20から新しいのだけになっちゃったね、古いURLは見えなくなつてもうぼっくり、というわけで表1」

試験区分	応募者数	前年同期応募者数	増減数	受験者数	受験率
ソフトウェア開発技術者	82,137	83,086	△949	48,959	59.60%
テクニカルエンジニア (データベース)	24,980	24,322	658	13,583	54.40%
テクニカルエンジニア (システム管理)	14,047	13,546	501	7,265	51.70%
テクニカルエンジニア (エンベデッドシステム)	3,717	3,856	△139	2,359	63.50%
初級システム アドミニストレータ	109,806	120,004	△10,198	74,992	68.30%
システム監査技術者	9,241	8,383	858	4,726	51.10%
基本情報技術者	127,523	134,252	△6,729	85,714	67.20%
合計	371,451	387,449	△15,998	237,598	64.00%

表1

「それを言うならびっくりだろう。それはそれとして、なにげに前年差を見ると初級シニアド、基本情報の基礎2種別について大幅に応募者数が減っております」

「でも応募者数自体が多いから」

「初級シニアドは91.50%になったし、基本情報も94.99%。それに対してソフ開も減っているとはいって98.86%。明らかに基礎系人気が下落だ。ま、エンベデットは96.40%で微妙だが、他の高度系は軒並み応募者数増加だ」

「つまり基礎をどんどん受かつて上級へとステップアップ！」

「合格率は一定だからそんなことはない。新たに情報処理試験に挑戦する者が減ってきているからに他ならない」

「困ったもんだね、でもそれならなぜ高度資格試験受験者が増加しているのか、それを知りたい。あ、いきなり高度を受ける人が出てきたんだ、そうだから基礎が少なくなったとか」

「合計で1万5千人も減っているんだからそんな奇妙な考えはいただけない。平成13年度からの試験制度の変更で高度試験の年齢制限撤廃や業務経歴書の提出が不要になったことが大きい」

「ふーん、じゃあ高度は安泰だね。技術者は高みに集まる逆ピラミッドに…」

「それは困る展開だ、一度受かつたらOKな資格だから日々刻々進化する情報技術の世界では5年10年前は勿論、1年前のそれですらもはや陳腐化するというのに」

「じゃ、どうしよう？ 漢字検定みたいに有効期限つき資格にするの？」

「それはITコーディネータ・補資格で実現されている。故にそれとは違った方向性として情報処理技術者試験がそうなるかどうかは可能性薄い」

「じゃ、資格なんて嬉しそうにあっても仕方ないんじゃないの？」

「だから資格を腐らせないためにも基礎資格である初級シニアドや基本情報などを受かつて満足するでなく、常に高みを目指し、試験を受け続けるという姿勢が大事だ。例え合格できなくても試験を受けたということだけで最新に近い情報技術に試験問題を通して触れていられる。この意味は大きい」

「そうなのだ」

「いや、なのだって…言われても」

「でも、そうか一って納得するのはなんか痛だし、わたしも断言しといてそちらの人と同じスタンスにいるようになることにより、また1ランクアップ！！」

「…」

「いいよいよ、1ランクダウンだよ。回って落ちないだけまし！」

「ま、回るか回らないかはおいておいて、やはり試験は申し込んだ以上、受験するべきだ。前述したとおり、試験問題をとおして多くの知識の片鱗に触れ、経験を疑似体験できる。だから受験して、午後の最後の試験まで試験を受験することが肝要である」

「参加することに意義があるのですな、オリンピックですね」

「そうなのに、先ほどの受験者速報を見ておわかりのとおり、軒並み受験率が低い。特に高度になるほど低く、システム監査などもはや半分しか受けていない」

「そだねー、基礎系でも3割以上受けていないね。そんなに急な休日出勤が入るのかなー？」

「入る人はいつも入って泣いているのだが、それよりもなによりも、勉強していないから自信がないとか、今回は雨降って面倒だからとか、午前受けたもののその結果が思わしくなく、どうせ午後の試験受けても採点すらしてもらえないから帰るという人などが多い」

「でも雨振りはいやだよ、お昼おべんと食べようとしても外で食べられないから試験受けてるところで食べる」と気がめいるう」

「確かに、お昼や休憩時間はちょっと場所を変えた方が気分転換になってよいが、だからと言ってわざわざ外出なくとも他の部屋行くとか、大体試験会場は大学が多いから人が集まるスペースがあるのでそこにいくとかすればいい。ようは試験会場に出向くのが億劫だからだ」

「そうそう、女子大で試験あるのもいや。女しかいない。試験官も受験者も女」

「そんなもんなのかなー？」

「そんなもんなんだよー、女しかないと女はてきとーになるのです、いろいろと。それとこれは男女ともだけど、最近試験官のレベルが低いような気がする」

「そうだな、前回と言えば電卓禁止になったにもかかわらず、電卓を使っている受験者がいたのにそれに気づかない試験官もいた。その他、前回はひどい受験会場があったから後で試験センターが受験者に聞き取り調査を行ったという。ま、今回から引き締めがあつたらしく試験官は名札をつけていた」

「つけていただければいいけどさー」

「うーん、そうかも知れないな。とにかく、そういう罠も張り巡らされているものの、試験会場で受けないことには始まらないし、終わらない」

「お昼はおべんとーなん  だけど、午後Iと午後IIの間の30分休憩は甘いものを食べる のです。糖分は頭を癒すのです。ついでに歩きます。午後IIの勉強はなんかもういい感じです♪」

「どういい感じなんだかわかりませんが、基本的に午後Iの試験は時間いっぱいかかるようにできているので、午後IIの前には甘いものでしょうか？」

「楽しそうだよねー、お昼も高度だと1時間半もあるからおべんと食べたらお散歩してついでにちょっとお勉強することもできるし。それで言うとソフ開って基礎のなかー、お昼1時間しかないから」

「そういう問題じやない。間違つてもお昼で午前の答え合わせなんかするものではないことだけは言っておいて、話を戻す」

「逆に工学系の大学だと女子トイレが少なくって大変で…」

「そこに戻らなくていい。受験するべきであることを説く話に戻る」

「あうう、それはそれで受ければいいってことだよね、合格者って応募者じやなくして受験者からの割合で決まっているから、次ページの表2を参照のことよ」

「うーんたった2年分だが、ま、大体試験種別で合格者の割合は同程度だな」

「でしょ。だったらたくさん受けければ合格者数が多くなる。その中に自分も入るかもしれない」

「そりや、受けているんだからな」

「そう、それに受からなくてもそれだけで勉強になっているんだから、半年に一度の総合学習だと割り切って受験していればそれはそれで有意義だしね」

「で、どうだった今回の？」

「うおー！」

「？」

「午後IIの論文が概要説明800字書き終わったら1時間経過！ 後1時間で最低1600字書けなんてひどいっ！」

「そうなのか、で、最後まで書けた？」

「書いた！ 流れるような日本語と字体とで2000字書いて最後に以上ってちゃんと書いた！！」

「そ、か…字が汚いのは減点対象だな…」

「うー、もう済んだことは忘れる。秋の試験を展望しようよ。三ヶ根の展望台から望む三河湾はもーさいこー！」

「マイナーな展開だな…」

「いいから秋の試験を受けようと思って情報をチェックしていたこんな秘密情報を発見したのだ！」

「秘密って…、情報処理試験センターの統計情報が？」

「そうだ！ 表は表でも表3だ！ 表ひょう言ってるとショッカーナ気分♪」

「…」



実施期	試験区分	平成 13年		平成 14年	
		応募者	受験者	応募者	受験者
春期	ソフトウェア開発技術者	84,525	83,086		
		受験者	51,225	49,606	
		合格者	8,067	5,793	
		合格率	15.70%	11.70%	
	テクニカルエンジニア (データベース)	応募者	22,369	24,322	
		受験者	11,814	13,225	
		合格者	902	1,166	
		合格率	7.60%	8.80%	
	テクニカルエンジニア (システム管理)	応募者	13,544	13,546	
		受験者	6,765	6,995	
		合格者	463	528	
		合格率	6.80%	7.50%	
	テクニカルエンジニア (エンベデッドシステム)	応募者	3,890	3,856	
		受験者	2,495	2,377	
		合格者	254	236	
		合格率	10.20%	9.90%	
	初級システムアドミニストレータ（春期）	応募者	109,507	120,004	
		受験者	73,905	81,311	
		合格者	26,807	25,144	
		合格率	36.30%	30.90%	
	システム監査技術者	応募者	6,729	8,383	
		受験者	3,282	4,160	
		合格者	236	286	
		合格率	7.20%	6.90%	
	基本情報技術者（春期）	応募者	128,270	134,252	
		受験者	84,113	89,093	
		合格者	14,741	16,632	
		合格率	17.50%	18.70%	
	春期試験合計	応募者	368,834	387,449	
		受験者	233,599	246,767	
		合格者	51,470	49,785	
		合格率	22.00%	20.20%	

表2

試験区分	平成 13年度			平成 14年度		
	応募者	受験者	合格者	応募者	受験者	合格者
春期試験						
ソフトウェア開発技術者	29.5	29.2	27.6	29.5	29.1	26.4
テクニカルエンジニア (データベース)	32.2	32.1	30.4	32.4	32.2	30.7
テクニカルエンジニア (システム管理)	35.1	35.2	35.0	35.6	35.6	35.2
テクニカルエンジニア (エンベデッドシステム)	33.6	33.5	33.3	33.7	33.6	33.5
初級システム アドミニストレータ	30.0	29.7	29.7	29.9	29.4	29.8
システム監査技術者	39.0	39.0	38.1	39.2	39.4	38.4
基本情報技術者	25.1	24.5	24.8	25.4	24.7	24.7
秋期試験						
システムアナリスト	38.6	38.7	37.9	38.8	38.8	39.1
プロジェクトマネージャ	38.4	38.5	37.8	38.4	38.3	37.5
アプリケーションエンジニア	33.1	33.1	32.2	33.1	33.0	32.0
テクニカルエンジニア (ネットワーク)	30.9	30.9	30.5	31.0	31.1	30.1
情報セキュリティ アドミニストレータ	33.0	33.1	32.8	32.6	32.7	32.5
上級システム アドミニストレータ	35.5	36.0	36.6	35.7	36.2	37.2
初級システム アドミニストレータ	29.5	29.0	29.2	28.9	28.3	28.5
基本情報技術者	24.8	24.2	24.6	24.9	24.4	24.3

表3

「表3の数値をなんと見ます？」

「小数点以下第 2 位で四捨五入されたような情報に見えるが、これはどう見ても平均年齢だな」

「そう！そして注目なのはこの合格者の平均年齢！」

「まあ、こんなもんだろう。でそれが一体？ は、もしや！」

「そうそう、きっとあなたの年齢その平均に近いほど、受かりやすいに違いない」

「いや、それは違うだろう。平均はあくまで平均で、その年齢に近いから受かりやすいかはヒストグラムとか分散とかで見ないと…」

「がーん、いいアイデアだと思ったのに。じゃあ、秋はなにさ！」

「いや、秋も春もないけど、秋は人気の高度試験が2種別もあるからどちらにするか迷うところ」

「ネットワークとセキュアドね？」

「そう、あとアプリも春にソフ開受かったSEの人には人気だ」

「いーよねー、アプリっておいしそうでいい。…けどこれも論文あるんだよお」

「まあ、基礎をこれからって人は開発系なら基本情報だし、ユーザ系なら初級システムアド、どっちかとってるならもう一方を受けることをお勧めします」

「でも基本から初級システムアドならまだ使用者としての立場の勉強でいいけど、逆はプログラムできないとお…」

「この際、今流行の Java を勉強してそれで受ければいい。面白いし、絶対ためになる。プログラムがオブジェクト指向でむつかしいならアセンブラか COBOL、これだとできることが限られているから勉強する範囲が絞れる」

「そつかーアセンブラかー、Z80 だったら C9 がリターンだったなあ」

「CASL II という擬似マシン専用のアセンブラだ。でももうやることはやりつくされているので問題はいつも似たようなもんだ」

「よし、じゃ、基礎はもういい高度に挑戦って人はなに？」

「当然情報セキュアド、これだとシステムアドから直接ステップアップ。どうしてもプログラムいやだな、とかなら基本情報やめてこっちでもいい」

「セキュリティは今大切だもんね。しかも午後 II が論文どころか論述ですらない！ これ重要！！！」

「そう、午後 I 同様の記述だからいいな」

「じゃ、そーゆーことでわたしはそれにしよーかなー、でも秘密情報だと（表3）32.5歳かー、あ、ネットワークのが若い（30.1歳）！」

「だからそれは…」

「ネットワークのが若いからそれにする！ そっちのが近い！ だからその対策は？ 人気なんでしょう？」

「ま、確かにネットワークは人気ある。ただやはり午後試験に入ると経験があるほうがいい、特に午後 II の論述はかなりの文字数で書かせるから」

「でも論文じゃないもん。もう論文いや！」

「まあ、セキュアド受かった人もネットワークとセキュリティはかかわり深いのでそのままステップアップでネットワーク目指すのもいい。逆にネットワークとった後、セキュアド狙うのも重なる部分多いのでいいですね」

「でもそうなるとネットワークもセキュアドもそれちやうとどーなるの！」

「いや、SE 経験あるなら絶対アプリ、ないなら上級システムアドとか…」

「なんにせよ全部論文あるじゃない！ 困る！ 論文ダメー！ 大体なんでアプリ（32.0歳）の方がセキュアド（32.5歳）より若いのよー！ 許せない！ ネットワークの次にアプリするなんていやー！」

「だからその統計に従ったキャリアルートに従わなくってもいいのに」

「それにしても、統計的にいうとその合格年齢より上の人はもうそれに受かっていて然るべきということになっちゃう…！ そつかー！ つまりその合格年齢より上の人は受けければ受かってしまうってことじゃないのー！？」

がーん、つまり 40 歳以上の人は受かってしまうんだー！ どうしよう！

四十にして惑わずってことー！？ あたし惑ってますかー！？」

「惑ってます」

「うおー！ 統計的に見て受かっているそこのあなた！ 受けられると平均年齢が上がるんで困ります…。でも午後 I は簡単でおいしいですよ♪ 焼き芋くらい」

「なんかわかりませんが全然困りません、受けてください」

おしまい

